

## ～「おおいそで働く職員のモチベーションとは」～

おおいそ学園副園長（兼）生沢分校教頭  
小 嶋 元

おおいそ学園、生沢分校の生活には、一年を通して数々の文化・体育・学習行事がふんだんに盛り込まれ、子どもたちにとって、成長・自立のための貴重な経験をできる場となっています。

春の入学式・始業式から始まり、遠足、野球・水泳大会、運動会、修学旅行、文化祭、駅伝・卓球大会、収穫祭など行事は盛りだくさん、年を超えて記念マラソン、大磯駅伝、そして年度の締めには卒業式・修了式を迎えます。また年間を通して朝マラソンや農園作業、定期・模擬テスト、検定試験、講演会や体験学習も行われます。

おおいそにやって来る子どもは、それまで学習や行事の多くを経験してこなかった、できなかった人ばかりですが、彼らのほとんどは、次第に日課に慣れ、生活も学習も落ち着いてできるようになります。規則正しい家庭生活と学校生活、そして栄養のある食事と十分な睡眠が、こどもが本来持っている力を引き出し、将来の夢や希望を持てるようになるのです。そうして彼らは、平均して一年半程度で退所し、自立へ向け新しい生活の場へ出ていきます。

しかしながら、退所後の彼らの更生・社会への適応問題について考えると、現実はなかなかハードルが高く、高校を退学したり、再び触法行為を犯してしまう事例が多く報告されています。そういった話を聞いたたびに、退所する時の彼らの晴れ晴れとした顔を思いだし、残念な気持ちに包まれます。

福祉職何人かに、「おおいそで働く上で、モチベーションになっていることは何ですか。」と聞いたことがあります。印象的だったのは、「いつか彼らの人生で、おおいそで学んだことを思い出し、生かされれば良いと思っています。」との言葉でした。福祉も教育も目先の成果や実績に一喜一憂する仕事ではありません。「一期一会」の気持ちを大切に、子どもにいまできる支援を精一杯与えてあげることが大切だ、という基本を改めて思い起こさせられました。

ここおおいそには、子どもと寝食を共に親代わりになって温かく支援する福祉職員、学びを通して夢を持たせたい教職員、また心理職員、栄養・調理職員、事務職員など様々な面からサポートする職員がいます。その活動は、関係するすべての機関の皆様のご理解とご協力に支えられています。これからもおおいそ学園・生沢分校の活動に、温かいご支援をよろしくお願いいたします。

## ～小学六年生修学旅行～

10月に1泊2日で上野、浅草方面への修学旅行が実施されました。たくさんの施設に行き、楽しい思い出をたくさんつくることができました。特に印象的だったのは、国立科学博物館(かはく)、夕食のもんじゃ焼き、たい焼き体験です。かはくでは、化石、宝石に夢中になり、おみやげもいくつかの宝石を選んでいました。初めて作り、食べたもんじゃ焼きはハガンを上手に使いこなしておいしくいただきました。たい焼き体験は、6匹作り大満足でした。あっという間の2日間でした。

小学部主任 林下 昌史

## ～中学一、二年生遠足～

10月10日に江ノ島方面へ行ってきました。まずは、大船駅で下車し、駅からも見える大船観音を見学し、その大きさを体感しました。次に湘南モノレールで江の島へ。初めてのモノレールの生徒もおり、スピード感や車窓からの景色を堪能しました。最後は、新江ノ島水族館へ。事前の調べ学習では海の環境について調べ、それぞれが興味のある海の生物について見学していました。また、魚に触れられるゾーンでは多くの生徒が楽しそうに触れ合っていました。最後は思い思いのお土産を買って帰ってきました。

中学部 1, 2 年主任 仲條幸敏

## ～中学三年生修学旅行～

10月9日、10日と二日にかけて大阪への修学旅行を実施しました。1日目は大阪万博を訪ね、様々な国のパビリオンで異文化に触れたり、ガンダムやポケモンの大型フィギュアの前で一緒に撮影をしたりと、実りの多い時間を過ごすことができました。2日目は道頓堀の川下りクルーズを体験し、大阪の華やかな通りを見学しました。食事は大阪ならではのお好み焼きや串焼きをおなか一杯食べ、充実した2日間を送ることができました。

中学部 3 年主任 西澤千晴

## ～関東少年文化祭～

11月12日(水)、神奈川県で関東少年文化祭が開催されました。学園の伝統でもあるディアボロと南中ソーラン節を披露しました。ディアボロとは中国ゴマで、お椀を2つ重ねたようなものがコマ本体となり、2本のハンドスティックの先に付いたひもで回転させることで、コマを安定させて操ります。南中ソーラン節は踊りを通して、児童が一致団結し前向きに取り組んで欲しいと思い、今年度新しく挑戦した演目です。

本番当日では、「踊るのが恥ずかしい」「やりたくない」等、ネガティブな言葉を発言する児童は一人もおらず、一人ひとりがとても良い表情で、堂々と演目を披露することが出来ました。児童の表情は達成感でキラキラしていました。

これを機に、児童が自信を持って人前で披露する楽しさ、達成感を味わうことができたのなら、児童自立支援施設の職員としての本望です。児童の向き合う姿、周囲の大人の協力に感謝致します。ありがとうございました。

竹寮 椿



## ～関東少年卓球大会～

今年度は基本を重視する練習を継続してきました。行事やインフルエンザ等で練習する機会が限られていた中、キャプテン、副キャプテンを中心に分校の先生方も協力してくださり、学園全体で取り組んできました。

試合結果は、団体戦準優勝、個人戦三位、五位入賞、個人戦小学生の部優勝と、とても良い成績を残すことができました。他の児童も礼儀・挨拶・マナーを守りながらそれぞれが精一杯プレーしていました。負けた後も落ち込むのではなく、他児の応援に回る姿も見られました。

竹寮 古宮

## ～収穫祭～

今年度収穫祭は、11月23日（日・祝）晴の中開催。猛暑と獣害で以前のような農作物量の確保は難しく、開催時間は午後半日開催としました。また飲食物模擬店は廃止し、作業所2か所より軽食の販売を依頼しました。参加者は来園者およそ300数十名、入所児・職員を合わせると400名近い人数となりました。児童のアトラクションは例年のディアボロの加えてソーラン節の2本立て、児童の真剣な演技に会場は大いに沸きあがり拍手喝采で大成功でした。

農作物販売で児童が大声で販売する声、久しぶりの出会いに懐かしむ声等、児童の活躍と児童・職員、OB 児童・OB 職員、関係者の交流の場となりました。 地域支援グループ 床井



## ～児童福祉施設駅伝大会～

11月15日、こどもの国で開催された児童福祉施設駅伝大会に参加しました。準備運動をすると少し汗ばむ位の暖かな駅伝日和の中、スタート時間が近づくと皆緊張の面持ちでしたが、スタート場所では気合とやる気に満ちた表情に変わり見ている職員は頼もしく感じました。練習時間が短かったことを感じさせないくらい遅しい走り、全員が最後まで走り切ることができました。オープン参加の為チーム表彰はありませんでしたが個人2名が区間賞と大健闘の大会となりました。 桂寮 井田



### 【編集後記】

今年は例年よりも早くにインフルエンザが流行した中で、子ども達はそれぞれの行事に向けて練習に取り組んできました。大会では日頃から心がけている「礼儀、挨拶、マナー」を実践していたと思います。（広報委員会一同）